

沖縄美ら島財団企画展

首里城 美術工芸品の 現状とこれから



The Present and Future of Shurijo Castle
2022年2月11日(金)～3月13日(日)

期間中、一部展示替えがあります。

入場無料 Free Admission

沖縄県立博物館・美術館 企画展示室

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, Planned Exhibition Room

【開館時間】9:00～18:00(金・土は20:00まで)※入場は閉館の30分前まで

【休館日】毎週月曜日 【主催】一般財団法人 沖縄美ら島財団

Hours: 9:00-18:00 (Open until 20:00 on Fridays and Saturdays)

*Last entry 30 minutes before closing.

Closed: Every Monday

沖縄美ら島財団 企画展 首里城 美術工芸品の 現状とこれから

本展では、(一財)沖縄美ら島財団がこれまで行ってきた首里城美術工芸品に関する取り組みを紹介するとともに、そのなかで得られた知見や資料の持つ重要性について解説します。また、2019年10月に発生した首里城火災における被害状況についてもご報告し、復興に向けた修復事業や今後の取り組みなどについても説明します。

The Okinawa Churashima Foundation has been conducting research and studies on the history and culture of Shurijo Castle. Among these activities, this exhibition will introduce our efforts on the artworks of Shurijo Castle collection. We will also report on the damage caused by the fire in October 2019, and show the reconstruction projects.

主な取り組み

模造復元

材料・技法・構造を綿密に調査し、忠実に再現します。



銀脚杯(2012年度)

銀製の八角脚杯。各面に京杓を付け、魚々子と呼ばれる小さな丸い彫で細かく彫られた地模様と菊と牡丹の花を交互に線刻で描いている。杯部の内側底部には、牡丹の花を線刻し、外側底部には蓮弁を描いている。縁の部分には雷文を彫らせている。

托付銀椀(2012年度)

椀・托子とも銀製、銀造となっている。魚々子の地模様と牡丹唐草文を繋ぎ合わせて蹴るように彫る蹴彫りで線刻し、縁の部分には雷文を彫らせている。



尚瀨王御後絵(2017年度)

御後絵とは琉球国王がなくなった後に描かれた肖像画。戦前のモノクロ乾板写真を基礎資料としつつ、さまざまな角度から調査・分析・実験が行われ、往時の色に関するデータが収集された。また細やかな描写についても研究を重ねられ、これまで蓄積されたデータやノウハウを基礎にしつつ約3年を経て完成した。

代表的な収蔵品

1992年の首里城公園開園以来、沖縄の文化財を収集してきました。

芋麻白地鳳凰と扇牡丹文様両面紅型
単子供衣裳(19世紀)

白地型。生地素材は芋麻。両面染め。鳳凰、龍は共に王族を象徴する霊獣として様々な工芸品に描かれた文様で、牡丹は、富貴を象徴する文様である。



白澤之図(17世紀前半) 県指定有形文化財

白澤は、徳の高い王の治世に現れる想像上の動物。作者の自了(1614-1644)は、歴史上、琉球の絵師では最も古い人物。口と耳が不自由だったが絵の素質は抜群で、中国から来た冊封使や、日本の狩野派の絵師たちに絶賛された。自了の絵と伝えられる作品は数点あるが、この絵は落款等もあり確実に自了の絵といえる唯一の作品である。

【展示期間】2月27日まで

修理

文化財を未来に遺すために、現状維持保存を原則とした修理を行います。本資料は「カラーフィル」という技法で修理を行いました。数種類の絵具を混ぜ合わせて本体に近い色合いを作りだし、接合部分を仕上げます。

呉須線彫牡丹文酒注(19世紀前半)

呉須と呼ばれる酸化コバルトを含む釉薬を使用し焼かれています。牡丹の花が彫られた線で表現されている。轆轤で円形に作られた後、板等で叩いて方形に形作られている。琉球王国の土族層が使用していた資料である。



ギャラリートーク

2022年2月12日(土)【時間】14:00~15:00
2022年3月5日(土)【時間】11:00~12:00 / 13:00~14:00
【定員】10名 【場所】企画展示室

講演会「文化財修理の最前線」

2022年2月12日(土)【時間】10:00~11:30
【場所】博物館講座室 【定員】60名
【講師】早川泰弘(東京文化財研究所 保存科学研究センター 副センター長)
土井菜々子(琉球漆工藝会代表 漆器修復師)
當間 巧(石川堂代表 表具師)

※いずれの催事も事前申込制。1/12(金)より受付開始。098-941-8200

博物館常設展 歴史部門展示室特集展 平成の首里城復元

彫刻家・今英男

今英男氏は平成の首里城復元のために、唐破風妻飾など木彫加工に携わった彫刻家です。本展では今氏が保管していた首里城復元に関する資料と、作業工程で作成された木型や図面などを展示します。

2022年1月19日(水)~3月6日(日)

博物館常設展観覧券が必要です。

■一般530円 ■高大生270円 ■県外小中生150円
※県内小中生、未就学児、70歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方、および介助者の方1名は無料

あなたの沖縄に出会う



【表面作品】(上段)花鳥園牡丹尾尾鳥園(19世紀) (下段左から)東洋巴紋牡丹文金足付盆(17~18世紀)、尚瀨王御後絵(復元)